

TUFS-ITP委員会 殿

提出日 2009年11月18日

氏名 足立享祐

ITP派遣報告書

以下の通り、東京外国語大学若手研究者トレーニングプログラムによる派遣報告をいたします。

1) 氏名・所属

足立享祐 (東京外国語大学大学院総合国際学研究科研究生)

2) 派遣先機関名・受入教員名

ロンドン大学東洋アフリカ研究学院

(Professor Andrew Gerstle, Department of the Languages and Cultures /

Professor Ravi Ahuja, Department of History)

3) 派遣期間

2008年3月22日～2009年9月21日

4) 研究テーマ

植民地支配のイデオロギーと在地語コミュニケーション

～19世紀英領ボンベイ管区における在地語論の史的展開～

5) 研究の概要

本研究は、植民地化に伴う知的体系の交換と社会記述の関係において近代インド諸語が果たした役割を明らかにすることにあることを主眼とし、19世紀の東インド会社ボンベイ管区における言語空間、とりわけマラーティー語の言語空間を詳らかにするものである

留学期間中については、論文執筆の過程でこれまで十分に触れることが出来ないまま残されている英国内の所蔵資料を、特に在地書語出版の拡大とイギリス本国による統制という歴史的な文脈を意識しながら、マラーティー語文献を可能な限り渉猟する。

6) 具体的成果（本事業の一環として発表したもの等あれば含める）

最大の成果は、SOAS、英国図書館所蔵のマラーティー語文献を閲覧・収集することが出来た点である。特に1867年25号法により出版物登録が公に定められる以前の図書は、マラーティー語揺籃本として取り扱われる。このうち英国図書館所蔵が確認される637点について、別添資料の通り目録化を行った。

同時に、半年間の間に、2009年度提出予定の博士論文について、英領ボンベイ管区言語文化史としての再構成を進めることが出来た。月次レポートで報告したものに加え、聖書翻訳、言語法制という観点からの各章の第1稿の指導教官への送付が完了し、現在、東インド会社における言語教育の問題についての執筆を進めている。

7) 今後の課題・問題点

留学中には、歴史学部のRavi Ahuja教授の下で、幾つかの連続セミナーに参加し、イギリス国内での研究動向に触れることが出来た。しかしながら、受入体制についての事前の下調べが不十分であったことにより、教授の現地調査や母国への帰国日程を十分に考慮に入れることが出来なかったことは大きな反省点である。面談の際には、教授の不在の際には自主的な研究を進めるようアドバイスされ、その点については十分満足できる調査・研究が行えたものの、現地において単なるゲストとしてではなく、様々な研究ネットワークに積極的に参加するという意味においては、これからに向けて課題を残すこととなった。

別添資料: 東京外国語大学若手研究者インターナショナルトレーニングプログラム成果報告書
"Catalogue of Marathi Books in the British Library (published up to and including 1867) "